



TITLE:

Experimental Studies of Hepatorenal Relationship from the Surgical Point of View (The Influence of Ligation of the Hepatic Artery and that of Obstructive Jaundice on the Kidney)(Abstract_要旨)

AUTHOR(S):

Uchiyama, Terumi

CITATION:

Uchiyama, Terumi. Experimental Studies of Hepatorenal Relationship from the Surgical Point of View (The Influence of Ligation of the Hepatic Artery and that of Obstructive Jaundice on the Kidney). 京都大学, 1964, 医学博士

ISSUE DATE:

1964-06-23

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/211285>

RIGHT:

氏 名	内 山 輝 美 うち やま てる み
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 記 番 号	論 医 博 第 129 号
学 位 授 与 の 日 付	昭 和 39 年 6 月 23 日
学 位 授 与 の 要 件	学 位 規 則 第 5 条 第 2 項 該 当
学 位 論 文 題 目	Experimental Studies of Hepatorenal Relationship from the Surgical Point of View (The Influence of Ligation of the Hepatic Artery and that of Ob- structive Jaundice on the Kidney) (外科的肝腎関係に就いての実験的研究 (肝動脈遮断, 胆道閉塞 の腎への影響))
論文調査委員	(主 査) 教 授 荒 木 千 里 教 授 木 村 忠 司 教 授 伊 藤 鉄 夫

論 文 内 容 の 要 旨

肝および腎は、ともにショックに関して重要な臓器とされている。一方、肝腎相互の密接な関係を表現して、従来、肝腎症候群という臨床概念があるが、近年、ショックについての研究が進むにつれ、次第に当症候群の存在価値も薄れ、解釈の仕方も多様で、曖昧なものになって来た。しかしなお、腎障害特に、急性腎不全の惹起因子として、肝傷害を重要視する学者がある。以上にかんがみ、著者は、犬を用い、腎動脈血流遮断、または、総胆管閉塞によって、比較的、一次的かつ単独の形の肝傷害を作成し、かかる肝傷害がどの程度腎に影響するかを検し、ショック問題と関連して、いわゆる、肝腎症候群についての考察を試みた。

すなわち、正常犬および総胆管結紮による黄疸犬について、肝動脈血流を遮断し、或いは、出血ショック実験を行ない、主として肝、腎変化を組織学的に追究するとともに、腎血流量を観察することによって、次のような結果をみた。

1) Penicillin 投与の有無にかかわらず、肝動脈血流遮断によって、死の転帰をとる犬では、肝の広汎な壊死とともに腎にもある程度の変化が見られるが、その基調をなすものは、nephrotoxic であり、ショック腎に見られるような tubulorhexic な変化を主とした劇しい所見は認められなかった。

2) Penicillin 投与により生存する犬でも肝にやはり、小葉中心性変性像が認められるが、これらは、限局化され、また、さかんな再生像を呈する。このような例では、腎に変化を証明できなかった。

3) 肝動脈血流遮断により死に至る犬でも腹膜炎併発例以外の例では、腸管に Congestion や、出血性壊死所見は、全く認められなかった。

4) 正常犬では、肝動脈血流遮断によって、血圧、ならびに腎血流量は、一時的、反射性に増量するのみであった。

5) 正常犬では、肝動脈血流遮断それ自体が直接腎に悪影響を与えるとは思われない。

6) 黄疸犬では、一般に、血圧、腎血流量が低値で、肝動脈血流遮断により、血圧、腎血流量の持続的

上昇を示す例が多いが、本実験からその理由を明らかにすることはできなかった。

7) 総胆管結紮による黄疸犬は、正常犬に比し、出血に対する抵抗性が低い。

8) 出血ショック実験における20%還血期に全返血した黄疸犬の腎には、上部尿細管の空胞変性、下部尿細管の拡張等顕著な変化が認められた。

論文審査の結果の要旨

急性腎不全の惹起因子として肝傷害を重要視する学説があるのにかんがみ、著者は犬を用い、肝動脈血流遮断、または総胆管閉塞によって肝傷害を作成し、かかる肝傷害がどの程度腎に影響するかを検し、ショック問題と関連して、いわゆる肝腎症候群について検討した。その結果、

1) 正常犬では肝動脈血流を遮断しても直接腎に悪影響があるとは思われない。

2) 黄疸犬では一般に血圧、腎血流量が低値であるが、これに肝動脈血流遮断を行なうと血圧、腎血流量の持続的上昇を示す例が多い。その理由は明らかでない。

3) 出血ショック実験において、黄疸犬では腎の上部尿細管の空胞変性、下部尿細管の拡張等著明な変化がみられる。

このように本研究は学術的に有益であり医学博士の学位論文として価値あるものと認定する。